記入例（新築の場合）

安　全　計　画　書

Ⅰ　工事計画概要

1.　工事名称	○○○○マンション新築工事		
2.　工事場所	四日市市○○町△△番地		
3.　工事種別	新築工事		
4.　建物概要	イ 用 途	共同住宅	ロ 構 造　鉄筋コンクリート造
	ハ 高 さ	軒の高さ　33.38　m	最高の高さ　38.50　m
	ニ 階 数	地上　11　階・地下　階・塔屋　階	
	ホ 建築面積	286.13 ㎡	ハ 延べ面積　2213.97 ㎡
5.　昇降機・建築設備又は工作物の概要	・自動火災報知設備、非常用照明、誘導灯、消火器 ・昇降機：乗用9人、90m/min（仮使用範囲外）		

1.～4.欄は仮使用する棟について記載してください。

Ⅱ　仮使用認定申請部分

1.　仮使用部分	別添図面に（黄緑色）で表示		
2.　用　途	共同住宅（モデルルーム）	3.　申請面積	概ね　249.47 ㎡

（注意）

Ⅲ　基本的な施工計画

1. 工事施工手順の概要（概念図）

建物の全体形状を示す簡単な平面図・断面図等を用いて、どの部分を使用するのかをわかりやすく表現する。
詳しくは別添図面や工程表に記すことになるため、ここでは工事の全容を概念的に示すものでよい。

2.　工事区画の位置及び構造	別添図面に（工事区画の位置は朱線で）表示
3.　工事工程	別添工事工程表に表示

配置図または仮設計画図及び各階平面図に仮使用部分と工事部分との仮使用区画の位置とその構造を表示する。

工程概要は、全体工程表の中で、仮使用部分と工事部分の相互の安全性を図るために、どのような手順と期間を要するものであるかを記す。

4.　工事用資材等の搬出入及びその管理方法

搬出入：別添図面参照

配置図または仮設計画図に矢印で表示し、同時に使用者動線、工事関係者出入口、資材搬出入経路が十分安全に区画されていることを表現する。

管理方法

工事用昇降機及びタワークレーンによる搬出入を行い、仮使用部分とは区画を行い、通路（避難経路）となる部分には資材等を置かない。

資材は、作業に使う使用量のみを搬入させ、火気から遠ざけた一定集積場所を指定し、資材置き場表示をして散乱しないように整理しておく。

接着剤等可燃物については、倉庫の中に入れ、取扱責任者表示をして施錠管理を行う。

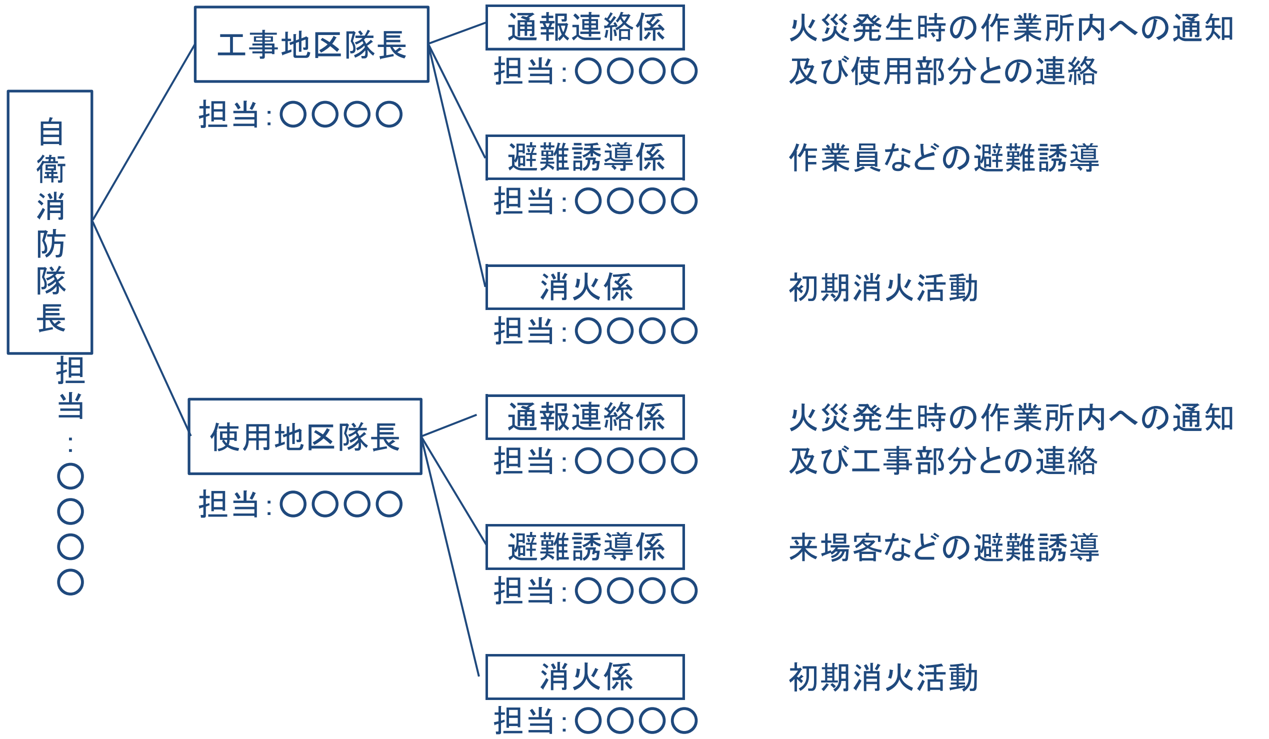
Ⅳ　工事により機能の確保に支障を生じる避難施設等その他の安全施設等及びその代替措置等

	種　類	箇　所	工事期間及び時間	代替措置の概要	管理の方法
1. 避難施設等	イ　廊下その他の通路 （使用する部分において、工事により機能の支障をきたす項目について記入する。）	（支障の生じる階と支障の内容、数等を記入する。）	（支障の生じている期間を記入する。）	（必要に応じて別図に表現しておき、ここでは、文章でその内容を説明する。）	（危険を伴う作業等の安全管理方法を記入する。）
	ロ　直通階段等	該当なし			
	ハ　地下道等	該当なし			
	ニ　スプリンクラー設備等	該当なし			
	ホ　排煙設備	モデルルーム	全工事期間中	代替措置として消火器を重点設置する。	
	ヘ　非常用の照明装置	モデルルーム	全工事期間中	代替措置として、仮設の非常用照明を設置する。	
	ト　非常用の昇降機	該当なし			
	チ　防火区画	該当なし			
2. その他の安全施設等	イ　消防用設備等 （1に含まれるものを除く。）	自動火災報知設備	全工事期間中	・仮設の感知器、火災報知器を設置する。	
	ロ　非常用の進入口	該当なし			
	ハ　その他				

記入例

V　出火危険防止（火災発生のおそれのあるものに限る）			
	種　　　　類	集　積　又　は　設　置　方　法	管　理　の　方　法
1.火気使用	ガス切断機 トーチランプ	移動式専用カートへボンベを固定し、非使用時は一定場所へ収納する。 安定した平坦な場所で使用し、非使用時は一定場所へ収納する。	使用責任者名を表示した火気使用許可証の発行、取付け、有資格者証携帯の義務付けを行う。また、使用時には、巡回及び点検を行う。
2.危険物等	イ　危険物 接着剤	施錠できる平坦な一定場所に集積する。 必要量のみを開缶する。 高積みをさける。	集積場所、量を指定する。 重責場所に使用責任者、集積物の内容、量を表示する。 火気厳禁の表示をし、従業員への教育を徹底する。
	ロ　可燃性工事用資材 木材・クロス	一定集積場所に散乱しないように整理して置く。	火気を遠ざけた一定集積場所を指定し、搬入数量を把握する。
3.機械器具	溶接機	周辺に引火しないコンクリート床等の上に設置。	作業員の有資格者確認をし、防火対策として作業時の引火物の除去・防火シートを養生し、消火器、消火バケツを設置する。また、使用器具の安全確認を行う。 注意事項のチェック確認を行い、火気使用に関する作業員意識を持たせ、尊守した管理を行う。 火気使用時、使用後の火の元確認を作業者及び現場監督で行う。

<table>
<tr>
<td rowspan="3">Ⅵ 防火管理体制</td>
<td rowspan="2">1. 火災予防対策</td>
<td>イ 工事部分の対策及び組織</td>
<td>①火気を使用する場合、その都度防火管理者に届出すること。
②火気を使用しての工事は、火花受け等の防護措置及び消火器等を準備し、実施する。
③火気使用後の点検は、防火担当者が必ず実施し、防火責任者に報告すること。
④喫煙は指定された場所で行うこと。
⑤作業時間外に作業する場合は、責任者の承認を得て行うこと。

防火管理者：○○○○
防火担当者：△△△△
火元責任者：使用地区　□□□□、工事地区　□□□□</td>
<td rowspan="2">2. 災害発生時の対策及び自衛消防組織</td>
<td rowspan="2">①自衛消防組織及び任務表


②災害発生時の対策
火災などが発生した場合、直ちに消防機関に連絡をするとともに、以上の任務分担により諸活動を行う。
避難する場合は、防火責任者が作成した別途避難経路図により行う。使用部分で火災が発生した場合、使用部分の人の安全を確保した上で、使用地区隊長を中心に初期消火を行う。
同時に自衛消防隊長、工事地区隊長への連絡で応援を求める。</td>
</tr>
<tr>
<td>ロ 使用部分の対策及び組織</td>
<td>①火気器具は指定された場所以外では使用しない。
②喫煙は指定された場所で行うこと。
③工事部分との防火区画付近には可燃物を放置しない。
④使用部分の廊下、階段、外部通路には物を置かず、常に避難ルートを確保する。
避難口については、避難方向に対して開錠可能な状態を保つ。</td>
</tr>
<tr>
<td colspan="2">3. 使用部分と工事部分との相互の連絡体制</td>
<td colspan="3">①防火管理者は防火担当者との連絡会を隔週実施するものとする。
②工事部分と使用部分との日常における相互連絡は相互の携帯電話等により事態の発生の通報を行う。
③非常時には常に携帯している携帯電話を利用し連絡を取る。（連絡先は複数確保）</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td colspan="2">4. 教育・訓練の実施状況</td>
<td colspan="3">①朝礼時及び連絡会において、作業所内作業員に連絡・教育を行う。
②使用地区では、必ず来場者と同行し、火災予防に努める。
③使用地区では、接客係含む全員に火災予防、非常時避難の教育・訓練を行う。</td>
</tr>
</table>